

イエスは彼(トマス)に言われた。「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ないで信じる人たちは幸いです。」(ヨハネの福音書20章29節)

復活を信じられない人への招き

あなたは、聖書の教えの中に、どうしても信じられないことはありますか。実は、イエス・キリストに任命され、寝食を共にしていた弟子の中にも、同じ問題に直面した人がいました。それはトマスという人物です。

イエス・キリストの死後、トマス以外の弟子たちは、「復活したイエス・キリストに会った！」と証言していました。しかしトマスは、その場に居合わせなかったため、復活を信じるできませんでした。それどころか、「イエス・キリストが自分の前に現れ、十字架に釘付けられた時の傷跡を確認できない限り、私は絶対に信じない」と断言したのです。



ところで、私たちはどこかに、過去の人々に対する偏見がないでしょうか。「現代人は、科学的で理性的な考え方ができるけれど、昔の人は迷信的で、超自然的な事象も簡単に信じてしまう」という見方です。「イエス・キリストの復活は、古い時代の盲信的な教えだろう」と考えるのです。

しかし、死者の復活は、同時代を生きていたトマスにとっても、到底受け入れがたいことでした。イエス・キリストと聞けば、十字架に釘付けられ、血を流し、最後に息を引き取った、死者としての姿しか思い浮かばなかったのです。

しかも、当時の弟子たちの置かれた状況は非常に厳しいものでした。師であるイエス・キリストが十字架刑に処されたことで、今度は自分たちの身が危険に晒されます。もし、この機に弟子の立場を捨てれば、命は助かります。しかし、「イエス・キリストが復活した」と証言していくならば、やがて殉教するほかない、という命がけの選択です。だからこそ、トマスを含む当時の弟子たちが復活を信じるのは、簡単なことでもなく、当たり前なことでもなかったのです。

それにしても、前述のトマスの発言からは、一見、疑いや不信の印象を受けます。しかし、ある意味では、とても正直で勇気のある発言です。周りの人に流されたり、「信じたつもり」で曖昧にするのではなく、「復活なんて信じられない」と、本音を吐露したのです。一生懸命に熟考し、真剣に吟味するトマスの姿が浮かんできます。もしあなたが、「教会に足を運ぶことはあっても、信じるには至らない」とか、「聖書は素晴らしい教えだと思うけど、ここだけは納得いかない」と感じられたことがあったのなら、まさに「現代のトマス」のような立場におられる、といえるかもしれません。

しかし、数日後、そんなトマスの前に、復活したイエス・キリストが現れるのです。そして、「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしのわき腹に入れなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい」と仰います。なんと、トマスが求めていた通り、十字架の傷跡に指を当てさせて、イエス・キリストご自身であることを示しつつ、「信じる者になりなさい」とトマスを招かれたのです。これが決定打となり、ついにトマスは復活を信じるに至りました。

イエス・キリストは、続けて語ります。「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ないで信じる人たちは幸いです」。イエス・キリストは、「あなたのように復活を信じられない人には、今後も、わたしの姿を見せようじゃないか」とは仰いませんでした。むしろこれからは、トマスを含む弟子たち、すなわち目撃者たちの証言を聞き、「見ないで信じる人たち」こそ幸いなのだ、と仰られたのです。

これは、イエス・キリストから、「現代のトマス」に対する、温かなやさしい、力強い招きです。トマスのように、疑問があれば正直に打ち明けつつ、思い切ってイエス・キリストを信じてみませんか。(H)